【境町】 校務DX計画

【現状】

本町では、令和元年度より校務支援システムを導入し、成績等の管理をシステム化するとともに、グループウェアサービスを活用し、教職員の働き方改革を推進してきた。また、GIGAスクール構想の推進により、児童生徒1人1台端末へ「クラウド型学習コンテンツ（ミライシード）」を整備し、ICTを活用した教育活動が浸透してきている。

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやりとりの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている。これらの課題解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題・方策】

(1) クラウドツールの未活用

教職員には、Googleアカウントを付与しており、情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用できる環境にある。児童生徒の欠席連絡や学校から保護者へのお便りの配信等について、アプリ等を活用したことで、業務の効率化、時間の有効化、ペーパーレス化に繋がっている。しかしながら、学校間におけるクラウドサービスの活用状況にばらつきがあり、活用が進んでいない学校がある。

学校間でのばらつきをなくすためにも、活用が進んでいない学校の現状と課題を把握するとともに、好事例や先進的事例を収集し、校務DXが推進されるよう支援していく。また、授業の質の改善を図るためにも、授業支援システムの導入を検討し、児童生徒はもちろん、教員に対しても「誰1人取り残さない」授業の実現に向けて取り組んでいく。

(2) 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

新入学生の名簿は、データにより教育委員会から学校へ送付している。校務支援システムへ登録するにあたって、デジタルデータをインポート又はテキストデータをコピーアンドペーストで対応している学校が大半だが、一部の学校においては、紙のデータを参照しながら手入力にて対応しており、教職員の校務負担が軽減されていないケースも見受けられる。必要な作業を削減するため、データの取込み方法を再確認するとともに、ICT支援員や学校間でも登録方法を確認する。

(3) FAXでのやり取り・押印の見直し

外部とのやり取りでは、依然としてFAXが一般的に使用されているほか、押印が必要とされる書類も残っており、これらの慣行が校務の効率化やペーパーレス化を阻害している。

災害や教育ネットワークの不具合など、FAXが電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、実態を把握し、見直しを行う。